

令和2年度「スクール読書チャレンジ運動」実践報告書

学校名	神崎市立脊振小学校 児童数 59人	担当者名	山下真由美
住所	郵便番号 842-0201 佐賀県神崎市脊振町広滝 580 番地	電話番号	(0952) 59-2002

◆ご提出いただいた個人情報は、本事業のためのみに使用し、それ以外の目的に使用することはありません。なお、県における個人情報の取扱いについては、佐賀県プライバシーポリシー及び行動プログラム (<http://www.pref.saga.lg.jp/web/privacy/privacypolicy.html>) に定めています。

I.取組前の宣言内容

宣言	目標	読み語りから 読書の世界を広げよう
	取組期間	令和2年 4月 6日 ~ 令和2年 11月 30日

※令和2年4月1日以降、各学校が取組みを始めた日から、令和2年11月30日までの取組みとする。

II.取組後の評価

評価	取組人数	80人	実施日数	112日	読書冊数	5,701冊	連携した団体数	1団体
	取組内容(概要)	<ul style="list-style-type: none"> ①「脊振小おはなし会」の方々による毎月各学級での読み語り。 ②低学年の図書時間に担任による読み語りと児童による本の紹介。 ③図書委員会の子供たちによる春と秋の図書館祭り。 ④図書館と給食のメニューのコラボ。 ⑤集会での本の紹介と読み語り。 						
	工夫したこと	<ul style="list-style-type: none"> ①「脊振小おはなし会」の方々には、年間通して、学年を順番に担当していただき、児童の発達段階や読み聞かせの時の様子や反応を見ながら本選びをしてもらった。また、個人的には、自然や科学などにこだわったり、絵本の絵や作者にこだわったり自由に本選びをしてもらうことで読み方や見せ方を工夫して読み語りをされていた。7月には戦争や平和に関する本を、10月には脊振町や神崎市にまつわる話など地域の民話を読むようにしている。 ②1.2年の担任は、図書の時間や帰りの時間など時間があるときには読み聞かせをしていた。そのような教師の姿を見て、児童からは自分たちでも読み聞かせやおすすめの本を紹介しようという活動へ広がっていった。 ③本校は、春と秋に図書館祭りをしている。図書委員会が中心になって、しおりコンクールや図書館クイズ、芝居やパネルシアターなどを 低学年、中学年、高学年と3日間に分けてそれぞれの学年に合わせた内容を工夫して、昼休みに行った。参加した児童には3冊券をプレゼントしたり、クイズに答えた児童にはしおりを渡したりして、楽しい時間を過ごした。紙芝居やパネルシアターでは、図書委員会の児童がナレーションや登場人物の役割を決め、自分たちのジェスチャーなども加えながら、見ている人が楽しめるような工夫を何度も話し合い、練習をして披露をしていた。 ④図書館の本の中から栄養士によるメニューを取り上げ、実際に給食で食べるという企画を行った。物語の中に出てくる料理やキャベツ、大豆など食材を活かした食べ物、最後にはカレーの具材についての話などがあった。その週は、給食の時間に給食委員会が、本のあらすじやメニューの紹介をしたことと実際に給食として食べる事 						

	<p>で、その本に興味を持ち、図書室へ足が向かっていた。</p> <p>⑤平和集会と人権集会で読み語りをした後に各学級で考えを深めていた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平和集会では、脊振小おはなし会の方々に低学年、中学年、高学年に分かれて「すみれ島」を読んでもらった。「すみれ島」は、特攻隊の話だったため、会の方々がそれぞれに学年に合わせて分かりやすい資料を準備していただき、物語の内容につながった。1.2年生には「へいわってすてきだね」の絵本を読んで戦争や平和について考えた。 ・人権集会は、12月の人権週間の時に行った。「ええところ」という絵本の読み語りから思いやりや自分や友だちの良さに気づくことなどについて考えを深めた。
<p>取り組んだ感想</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「脊振小おはなし会」は、18年も続くボランティアグループである。会員の年齢も様々で子ども達もよく知っている地域の方々なので本の世界の中で会話しながら楽しい時間をすごしている。 ・担任や身近な教師が読み語りをすることで児童は落ち着いた雰囲気の中で集中して話を聞いている。話の内容から自分の経験談を話し出したり、「自分も読み語りをした」という思いをもって活動が広がったりと1冊の本を共有することでクラスのよい関係が作られることにほほえましく感じられた。 ・図書館祭りでの読み語りでは、今年はじめてパネルシアターに挑戦してみました。昼休みに図書委員会の児童がアレンジを加えながら練習をする姿や様々な委員会の子ども達が図書室を活性するために工夫をいっしょに考えていくところは、学校全体を動かす高学年の活躍に感動した。 ・今年、集会のメインを絵本の読み語りにした。どの学年も同じ本にしたので難しかったかもしれない。しかし、おはなし会の方や担任の先生方の補足があり、児童にとって知らないことを知識として捉えることができたことがありがたかった。 ・総合的に学校図書館の良いところは、いろんな人達の関わりのおかげで子ども達の読書の世界が広がっていくことに希望を感じた。
<p>これまでの取組や今後の取組予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「おすすめ50冊」を学年別に用意し、50冊読むことができた児童は全校で紹介して、賞状を校長先生に渡してもらおうようにした。また、本校の目標冊数を年間全校平均140冊とした。それで、低学年は「年間180冊」、中学年は「年間140冊」高学年は「年間100冊」として全員が達成できるよう、各自の図書カードに100冊色塗りシートを貼り、20冊ごとにシールと3冊券を渡すようにした。 ・図書室でスタンプラリーを行い、図書室に足を運ぶような企画をした。 ・12月に人権集会で「ええところ」と言う絵本の読み語りをした。全校で人権や思いやりについて考える時間を持った。 ・学校の図書室は、異年齢の空間であるために、司書補をはじめ、みんなで工夫したアイデアを出し合って、読書の世界を広げられるような、みんなが気持ちのよい空間になるようにしていきたい。

「スクール読書チャレンジ運動」実績報告 資料

①「脊振小おはなし会」の方々による毎月各学級での読み読みの様子。



②低学年の図書の時間に担任による読み語りと児童による本の紹介をする様子。



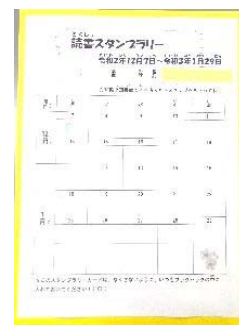
③図書委員会の子も達による春と秋の図書館祭り。



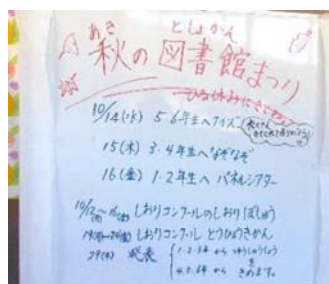
図書館クイズ



3冊券のプレゼント



スタンプラリーカード



初めてのパネルシアターの練習「ジャックと豆の木」



大男が落ちる場面で大喝采

④図書館と給食のメニューのコラボ。



図書館と給食のメニュー
コラボコーナー



『今日の図書館と給食のコラボメニューは「今日のごはん」です。魚が給食に出ています。……』

⑤集会での本の紹介と読み読みの様子。

平和集会



図書委員会からの平和や戦争に関する本の紹介コーナー



Webで集会委員が司会

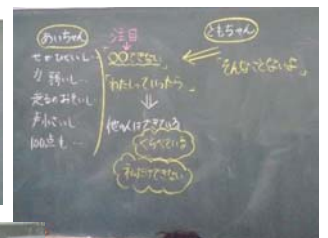


「脊振小おはなし会」の方々による「すみれ島」の読み語り

人権集会



図書委員会からの人権に関する本の紹介コーナー



担任による補足や児童との話し合いの様子